ふくしま心のケアセンター
地域アルコール対応力強化事業
（アルコール・プロジェクト）
平成 30 年度　報告書

一般社団法人福島県精神保健福祉協会

ふくしま心のケアセンター

目　次

1. アルコール・プロジェクトの概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1） 地域アルコール対応力強化事業の目的
2） アルコール・プロジェクトのメンバー

2. 専門職研修会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

1） 第一回関係者向け研修会
2） 第二回関係者向け研修会
3） TV 会議システムを用いた研修会

3. 住民に向けた普及啓発等の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・7

1） ふたばワールドにおけるブース出展
2） アルコール関連問題啓発週間事業「飲酒運転撲滅」駅前キャンペーンへの協力
3） 啓発リーフレットの作成
4） 福島市保健所アルコール家族教室における講師
5） 郡山市保健所アルコール家族教室における講師
6） その他の協力事業

4. 課題と展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

1. アルコール・プロジェクトの概要

ふくしま心のケアセンター「アルコール・プロジェクト」は、福島県より委託された被災者心のケア事業の一環として「地域アルコール対応力強化事業」を実施するために、平成 26 年 4 月に発足した。活動の概要は以下の通りである。

① 専門職のスキルアップを図るための研修会の開催
② 被災住民に対する普及・啓発活動の実施
③ 被災地において支援活動を行なうためのモデル事業の展開

1) 地域アルコール対応力強化事業の目的

東日本大震災及び原子力事故による環境の変化や見通しが立たない避難生活等は、多くの県民に多種多様なストレス症状を引き起こしており、うつ傾向の割合の増加が見られている。また、訪問支援等を行っている支援者からは、飲酒問題が関係する相談や支援の難しさが報告されている。ふくしま心のケアセンターの飲酒問題を症状とする相談件数の経年変化を見ても、平成 25 年度は 284 件、平成 26 年度は 404 件、平成 27 年度は 525 件、平成 28 年度は 787 件と増加傾向にあった。平成 29 年度は 319 件と一度減少に転じたが、長期化した飲酒問題が関係するケース支援には困難を伴う。

このような背景から、地域の中でアルコール関連問題への取り組みを強化することを目的に、ふくしま心のケアセンター内にプロジェクトチームを設置し活動を行っている。福島県立医科大学と連携して、地域支援者の人材育成を通して、地域のアルコール関連問題への対応力強化を図ると共に、被災者への支援及び普及啓発を展開する。

2) アルコール・プロジェクトのメンバー

前田正治（ふくしま心のケアセンター副所長 福島県立医科大学災害こころの医学講座 主任教授）
◎雫石真実（ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員）
大越寛大（ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員）
松田聡一郎（ふくしま心のケアセンター県北方部センター 方部課長）
羽田雄祐（ふくしま心のケアセンター県北方部センター 主任専門員）
佐竹美紀（ふくしま心のケアセンター県中・県南方部センター 専門員）
〇菅野寿洋（ふくしま心のケアセンターいわき方部センター 主任専門員）
米倉一磨（ふくしま心のケアセンター相馬方部センター センター長）
※後藤海帆（福島県保健福祉部障がい福祉課 主査）
※佐藤しのぶ（福島県精神保健福祉センター 主任保健技師）
※大島洋和（公益財団法人 星総合病院 星ヶ丘病院・ふくしま心のケアセンター顧問）
【総務担当】相山未希子（ふくしま心のケアセンター基幹センター 総務財務課長）

◎チームリーダー 〇サブリーダー ※オブザーバー

2. 専門職研修会の開催

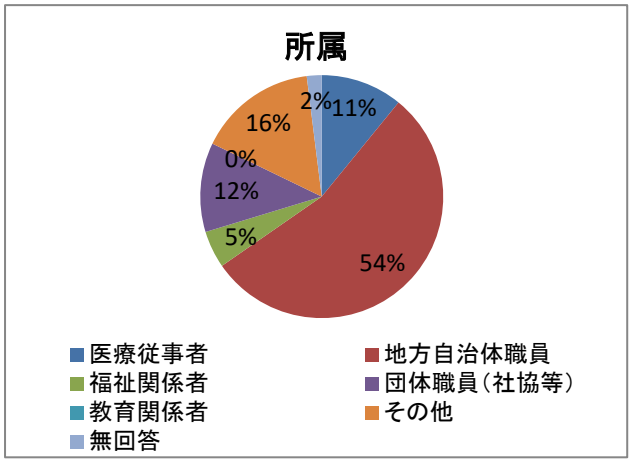
1） 第一回関係者向け研修会

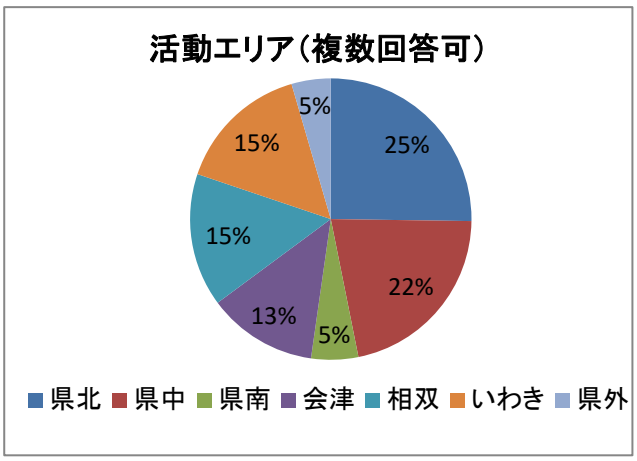
目　的：住民の関心が高い“健康”や“生活習慣病”とアルコールの関連性に視点を置き、保健指導の一環としての介入方法の基本を学ぶ。また、事例を通してアルコール問題のスクリーニングをはじめ、具体的な節酒支援のスキルを身につけることにより、福島県の支援者のより実践的なアルコール問題への対応力の強化を図る。
日　時：平成 30 年 7 月 10 日（火）　13：30～16：30
場　所：いわき産業創造館 企画展示ホール A
対　象：被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者
参加者：53 名（スタッフ含）
内　容：講演「節酒指導応用編～事例検討を中心に～」
　　講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター
　　福田　貴博　先生
主　催：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター
共　催：福島県
後　援：福島市、いわき市、公立大学法人福島県立医科大学

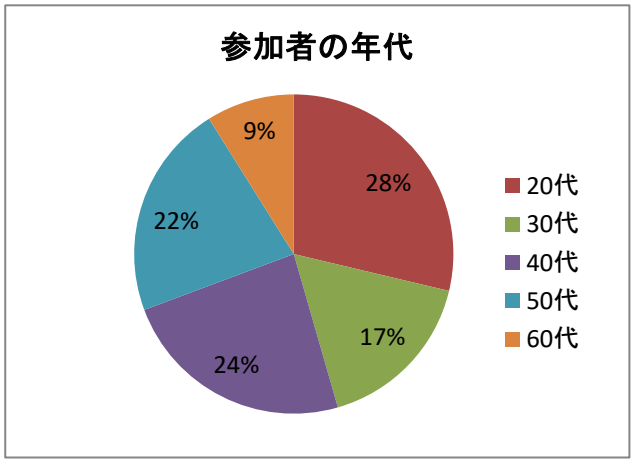
2） 第二回関係者向け研修会

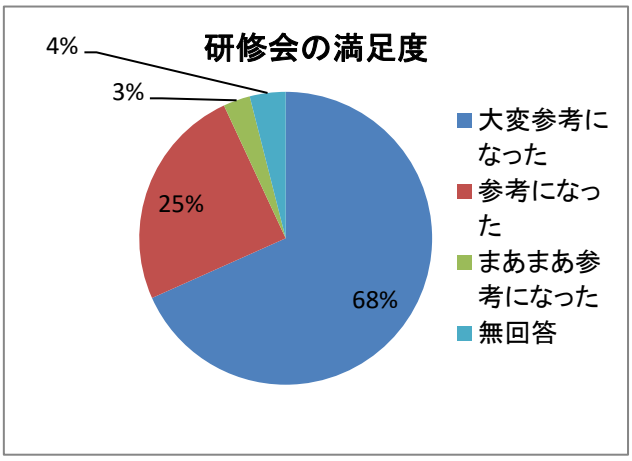
目　的：住民の関心が高い“健康”や“生活習慣病”とアルコールの関連性に視点を置き、保健指導の一環としての介入方法の基本を学ぶ。また、事例を通してアルコール問題のスクリーニングをはじめ、具体的な節酒支援のスキルを身につけることにより、福島県の支援者のより実践的なアルコール問題への対応力の強化を図る。
日　時：平成 30 年 7 月 11 日（水）　10：30～14：30
場　所：福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ（A・O・Z）大活動室 2、3
対　象：被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者
参加者：79 名（スタッフ含）
内　容：講演「10 分で出来る！保健指導としての節酒支援」
　　講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター
　　福田　貴博　先生
主　催：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター
共　催：福島県
後　援：福島市、いわき市、公立大学法人福島県立医科大学

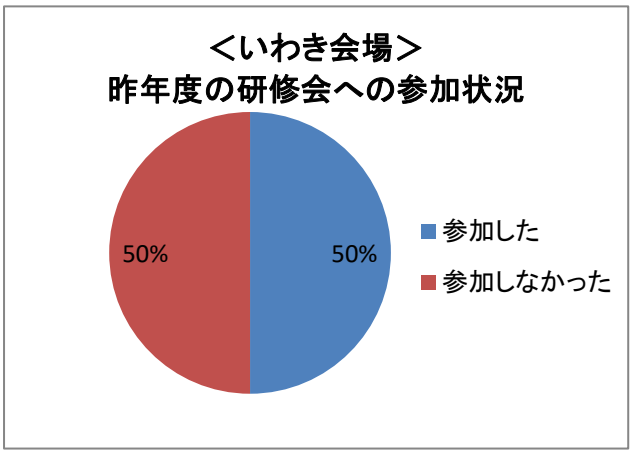
■　第一回及び第二回関係者向け研修会アンケート結果（回収 101 件／参加者 132 名）

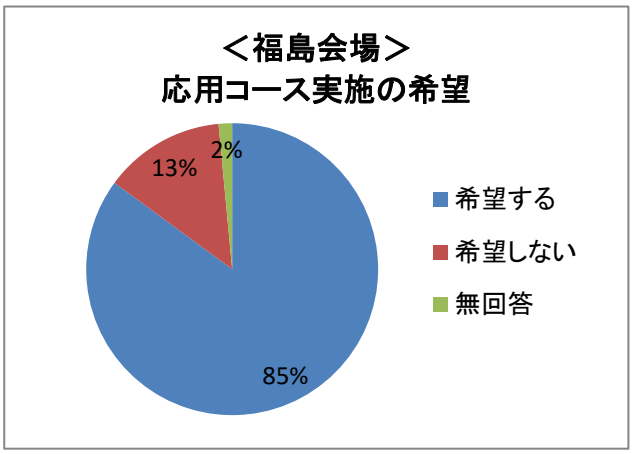












■　参加者のアルコール関連問題に関する困りごと（アンケートより一部抜粋）

・アルコール依存症の治療ができる医療機関が存在していないため、抱え込まざるを得ない。介入困難や予後不良ケースについての対応が多く疲弊してしまう。
・医療機関（アルコールに悩む住民を繋ぐ資源）が少ない。
・アルコール依存症（と思われる方）への治療へつなげる介入が難しい。面接の仕方が難しい。
・孤立している中高年男性への関わりが難しく、楽しみ等を考えて取り組むことを考えている。より効率的な手法があれば知りたい。
・毎日飲酒されている方で毎月訪問をしているが、どんな声かけをしていけば良いのか。
・アルコール依存がからんだ家族支援。
・脳もダメージを受けているだろうと思われる方（認知症、人格障害等）への関わり方。
・高齢者のアルコール問題。80 代で認知症のような症状がみられる方が増えている。

■　参加者の感想（アンケートより一部抜粋）

・事例がとても参考になった。目標設定の仕方など、少しの努力で達成できそうなことを対象者と一緒に考えられるようにしたい。ケースによっては長いスパンで取り組むものだなと思った。
・節酒指導、AUDIT という言葉は知っていたが、具体的にどういうことか、誰をターゲットにすることが効果的であるか、丁寧な説明で分かりやすかった。もっと多くの人に知ってもらいたいと思った。
・大変勉強になった。また今後もアルコール問題について取り組んでいけるようにしてきたいので、研修の機会を作って欲しい。
・具体的な節酒指導が知ることができて良かった。今後、実際に行ってみたいと思った。
・短時間でできる保健指導は非常に効率的だと思った。ぜひ実践していきたい。
・保健指導という視点でアルコール問題の研修に参加したのは初めてだった。貴重な機会をありがとうございました。
・ターゲットをしぼり、かつ意欲のある方から節酒指導を行っていきたいと思う。とても為になった。
・住民の方々に保健指導を実施している中で、事例のようなケースが多々ある。“つき合いで断れない”や“飲み会の習慣”がある地域性もあり、困難を抱えていたが、先生の講話を聞き、できる情報提供からやってみたいと思った。
・とても理解しやすかった。何度もポイントをくり返し説明してくれたこと。説明してくれたことをそのまま実際の指導で使える内容で良かった。

3） TV 会議システムを用いた研修会

目　的：アルコール関連問題に関して、特に早期介入、動機付け面接、節酒による介入方法等を学ぶことによって、アルコールによる健康障害や依存症の予防に関する効果的な支援方法を学び、アルコール関連問題への地域の対応力強化を図る。TV 会議のネットワークは、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターを中心に、同久里浜医療センター、同琉球病院、同花巻病院などが参加している。なお、研修会の進行、およびテーマや講師の選定は、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターが行う。

場　所：ふくしま心のケアセンター いわき方部センター　　時間：17：30～18：30

日程	内容	参加者※ｽﾀｯﾌ含
H30 年 5 月 9 日	講義「地域と職場のアルコール問題の現状」 講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	3 名
H30 年 6 月 13 日	講義「WEB 上の早期介入ツールの開発： SNAPPY-CAT から SNAPPY-DOG まで」 講師　地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 角南 隆史 先生	5 名
H30 年 10 月 3 日	論文抄読「アフリカの地域でのブリーフ・インターベンションの効果検証」 講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 杠 岳文 先生 講義「精神科医としてアルコール使用障害の一般医療化に必要なこと」 講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 武藤 岳夫 先生	3 名
H30 年 11 月 14 日	講義「多様化する依存症　アディクションの併存障害について（総論）」 講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 福田 貴博 先生 論文抄読「飲酒による疾病の保護的効果に関する研究結果」 講師　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	5 名

3. 住民に向けた普及啓発等の活動

1） ふたばワールドにおけるブース出展

「自分のお酒に対しての体質をチェックしながら、心の健康について一緒に考えてみませんか」というテーマで、一般住民に対してお酒と健康に関する普及啓発を実施した。当日はアルコール・プロジェクトのスタッフ 5 名で参加し、運営を行った。

日　時：平成 30 年 9 月 29 日（土）　10：00～15：00
場　所：浪江町地域スポーツセンター
対　象：双葉郡民をはじめとする一般住民、関係機関・団体職員等
来場者：総来場者約 15,300 名、当ブース参加者約 400 名
内　容：アルコールパッチテスト 483 部配布、啓発資材 336 部配布、AUDIT36 名実施
主　催：双葉地方広域市町村圏組合、一般財団法人福島県電源地域振興財団、浪江町

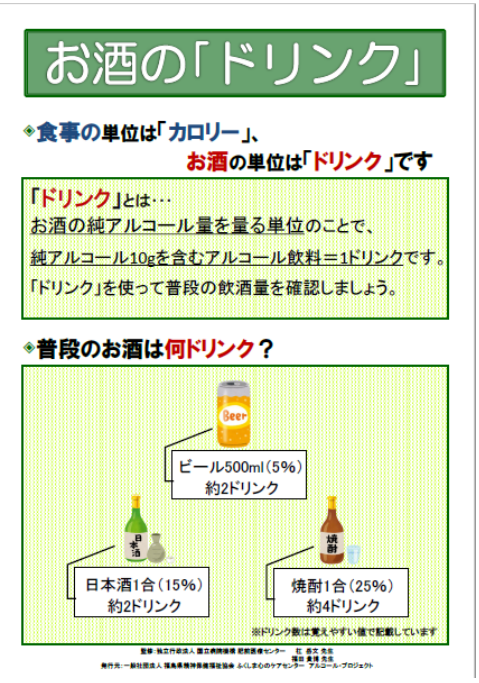
2） アルコール関連問題啓発週間事業「飲酒運転撲滅」駅前キャンペーンへの協力

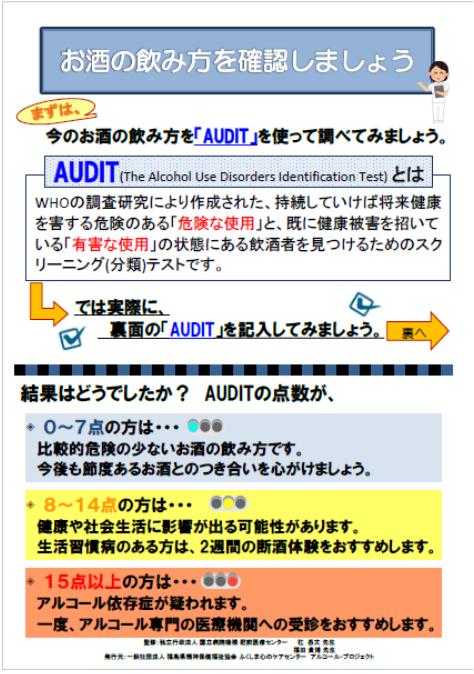
目　的：一般住民に向けた飲酒運転やアルコールによる健康への影響など、アルコール問題に関する知識の普及を行い、関心を高めること。
日　時：平成 30 年 11 月 11 日（日）　9：30～12：00
場　所：JR 郡山駅　郡山駅西口駅前広場、ピボット前、西口中央出入口前、エスパル出入口前
対　象：通行される一般市民
内　容：飲酒運転撲滅のティッシュ 1,000 セット、普及啓発資材 300 セット配布
主　催：公益社団法人全日本断酒連盟
後　援：内閣府、厚生労働省、警察庁
協　力：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター
スタッフ：17 名（断酒会 14 名、福島県障がい福祉課 1 名、ふくしま心のケアセンター2 名）

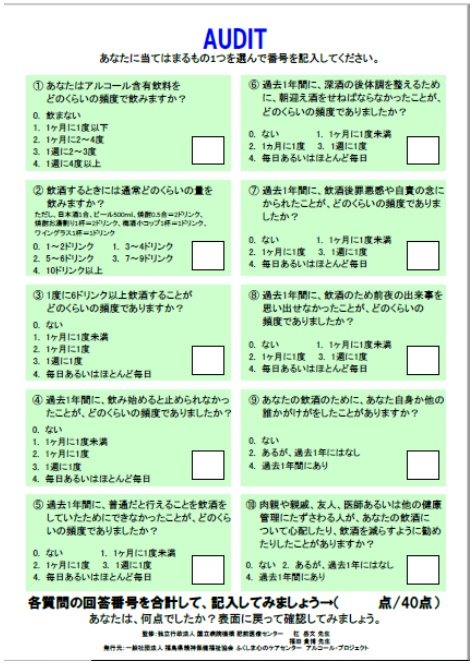
3） 啓発リーフレットの作成

昨年度に引き続き、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターの杠岳文先生と福田貴博先生の監修のもと、ふくしま心のケアセンターオリジナルの高齢者版リーフレットを作成した。

今年度は「ドリンクについて」、「AUDIT について」の 2 種類が完成し、昨年度に作成した「お酒と健康」、「飲酒量の目安」のリーフレットと合わせて、市民公開講座や支援者向け研修会等の場で広く活用した。







4） 福島市保健所アルコール家族教室における講師

場　所：腰の浜会館
対　象：アルコール依存症者の家族、本人等

日程	内容	参加者数
H30 年 5 月 10 日	①CRAFT とは ②暴力への対応	6 名
H30 年 6 月 14 日	①飲酒やギャンブルのきっかけを探す ②教室参加の目標づくり	5 名
H30 年 8 月 9 日	①コミュニケーションを変える	8 名
H30 年 9 月 13 日	①コミュニケーションを変える	9 名
H30 年 11 月 8 日	①望ましい行動を増やす	5 名
H30 年 12 月 13 日	①イネイブリングをやめる	7 名
H31 年 1 月 10 日	①あなた自身の生活を豊かにする ②本人へ治療をすすめる	7 名
H31 年 2 月 14 日	①暴力への対応 ②コミュニケーションを変える	7 名

主　催：福島市保健所

5） 郡山市保健所アルコール家族教室における講師

場　所：郡山市保健所
対　象：アルコール依存症者の家族

日程	内容	参加者数
H30 年 8 月 28 日	①オリエンテーション、家族相談・交流 ②CRAFT を用いたプログラムについて	2 名
H30 年 10 月 23 日	①家族相談・交流	1 名
H30 年 11 月 27 日	①家族相談・交流 ②暴力と安全第一とは	1 名
H30 年 12 月 25 日	①家族相談・交流 ②より良いコミュニケーション	2 名
H31 年 1 月 22 日	①家族相談・交流 ②上手くいかないことを中止しましょう	3 名
H31 年 2 月 26 日	①家族相談・交流 ②望ましいことを増やしましょう	4 名
H31 年 3 月 26 日	①家族相談・交流 ②家族自身の生活をより良くするために 治療を勧めてみましょう	3 名

主　催：郡山市保健所

6） その他の協力事業

① コミュニティ強化法と家族トレーニング（CRAFT）勉強会への講師派遣
日　時：平成 30 年 6 月 20 日（水）　15：40～16：40
場　所：福島県精神保健福祉センター　デイルーム
対　象：福島県精神保健福祉センター職員
参加者：10 名
内　容：CRAFT の基本知識に関する講義、県内における CRAFT 及びアルコール家族教室の取り組み状況に関する情報提供、質疑応答などを実施した。

日　時：平成 30 年 7 月 12 日（木）　17：30～19：40
場　所：郡山市保健所　会議室
対　象：郡山市保健所職員
参加者：8 名
内　容：CRAFT の基本知識に関する講義、アルコール家族教室における集団 CRAFT の内容に関する講義、質疑応答などを実施した。

② 平成 30 年度精神保健福祉関係職員研修会への講師派遣

日　時：平成 30 年 10 月 26 日（金）　13：30～16：00
場　所：いわき市総合保健福祉センター　3 階　健康学習室
対　象：いわき市各地区保健福祉センター、各地域包括支援センター、基幹相談支援センター、各地区障がい者相談支援センター、各医療機関、関係機関の職員　等
参加者：31 名
内　容：「依存症者の家族支援について～CRAFT を用いた家族の適切なコミュニケーションを学ぶ～」というテーマで講話を行った。

③ 平成 30 年度支援者のための勉強会への講師派遣

日　時：平成 30 年 10 月 30 日（火）　10：30～12：00
場　所：大熊町役場会津若松出張所　第一会議室
対　象：被災者の相談支援に携わる職員、行政機関、社会福祉協議会、障がい者福祉施設、その他関係機関の職員
参加者：17 名
内　容：主に AUDIT の使い方と、その評価に関する講話を行った。

④ 平成 30 年度アディクションフォーラムへの講師派遣

日　時：平成 30 年 12 月 18 日（火）　14：00～16：30
場　所：郡山市音楽・文化交流館　ミューカルがくと館　大ホール
対　象：一般県民および関係機関の職員
参加者：140 名
内　容：「アディクションからの回復のために～震災後のアルコール問題への取り組み～」というテーマで実践報告を行った。

⑤ 平成 30 年度アディクション関連問題に携わるスタッフのためのミーティングへの参加

日　時：平成 30 年 12 月 6 日（木）　15：30～17：00
場　所：福島県保健衛生合同庁舎　5 階　デイケア室
対　象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等
参加者：13 名
内　容：第 30 回東北アルコール関連問題学会の伝達講習、事例検討等が行われた。

日　時：平成 31 年 2 月 7 日（木）　15：30～17：00
場　所：福島県保健衛生合同庁舎　5 階　デイルーム
対　象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等
参加者：35 名
内　容：情報提供として、カードゲーム型支援ツール Can-JOURNEY の紹介や、依存症治療者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修の復命研修等が行われた。

⑥　地域でのアルコール健康問題について考える集いへの参加

日　時：平成 30 年 11 月 1 日（木）　10：00～12：30

場　所：南相馬市 消防・防災センター

対　象：主に相双地区で活動を行っているアルコール健康問題について興味・関心のある方および医療・保健・福祉従事者

参加者：27 名

内　容：医療法人財団青渓会駒木野病院の田亮介先生による講話や、相双地区におけるアルコール問題への取り組み、地域のアルコール問題に関するディスカッションが行われた。

⑦　第 30 回東北アルコール関連問題学会宮城大会への参加

日　時：平成 30 年 10 月 14 日（日）　9：30～17：00

場　所：仙台国際センター

参加者：234 名

内　容：アルコール・プロジェクトから 2 名が参加した。国立病院機構久里浜医療センター院長の樋口進先生による記念講演のほか、埼玉県立精神医療センター副病院長の成瀬暢也先生による基調講演があった。

4. 課題と展望

アルコール・プロジェクトによる活動を開始して 5 年が経過した。当初は試行錯誤で始めた節酒アプローチもようやく定着しつつある。2018 年には「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン」が公開されたが、そこでも危険飲酒や有害飲酒といった問題飲酒ケースでは当然のこと、アルコール依存症の場合でも、断酒のための経過的手段、あるいはハーム・リダクション（少しでも有害性を減らす努力）という観点から節酒（減酒）を促す場合もあるということが明記されている。こうした新しい考えを、この 5 年間にわたって専門職や関係者に伝えていったことは本プロジェクト活動の大きな功績であったと自負している。

一方で、多くの課題もまた残っている。特にアルコール専門機関等との連携が十分でないことが大きな課題である。東北の他県と同様に、本県でもアルコール専門病院は非常に少なく、どこの入院施設も多くの患者を抱え過ぎている状況であると聞く。こうした中で、福島県や精神保健福祉センターと連携を取りつつ、どのようにして専門機関と関係性を作っていくか、それを模索していきたい。